

## 鹿島灘の鳥類

茨城の海産動物研究会

### はじめに

茨城県沿岸、鹿島灘の地域からはこれまで14目36科150種の鳥類が記録されている(山口, 1984)。一方、冬季に茨城県沿岸に飛来する海鳥については日本野鳥の会茨城支部が1996年から毎年調査を行って詳細な観察記録が報告されている(池野ほか, 1997, 1998; 栗田ほか, 1999, 2000, 2001)。このなかには鹿島灘も調査地に含まれているので、ここでその一部を引用した。今回の調査では海岸からの観察と同時に鹿島灘沖でも調査を行った。調査船に乗船させていただいた舟橋正隆氏、ヘッドランド施工について資料を提示いただいた茨城県土木部河川課の谷中 勤氏に深く感謝の意を表したい。

### 調査地および方法

調査地域は東茨城郡大洗町の大洗岬から鹿島郡波崎

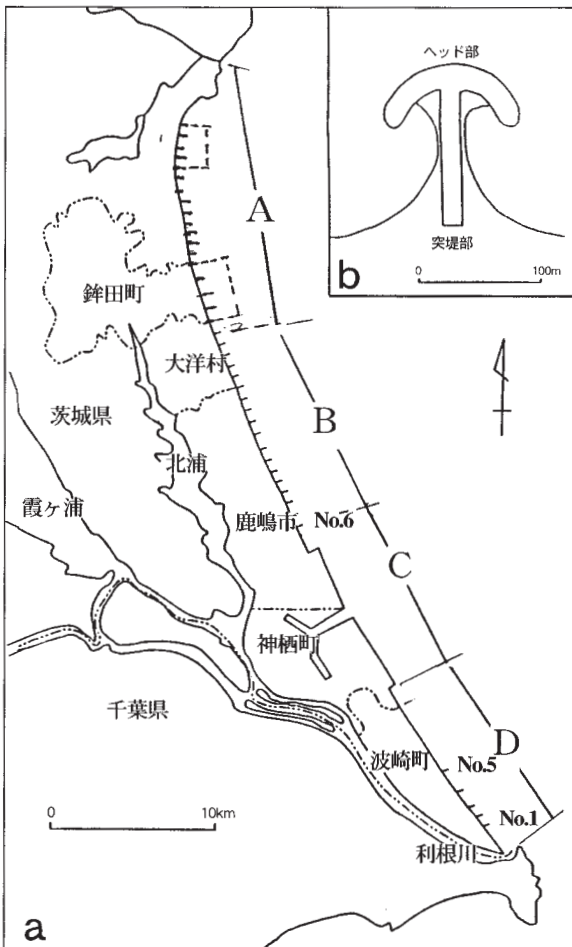


図1. 調査地域。

a: ヘッドランドの分布, b: ヘッドランドの構造。

町までの97 km の沿岸で、この地域を4地区に分けて調査コースを設定し(図1)、20倍以上のフィールドスコープを用いて、見晴らしの良い所から観察した。

鹿島灘の海岸線は、強い波浪と沿岸流が侵食して形成された弧状をなす単調な海岸線であり、特に南部には砂丘が発達している。鹿島海岸の土地と霞ヶ浦の水の利用を図る目的で、1969年10月に鹿島港が開港され、さらにこの港を中核とした大規模な鹿島臨海工業地帯が開発された。

鹿島港の開設後、この豊かな海岸の侵食の被害が迫ってきた。鹿島沿岸の一部地域でも砂浜が100 m 程度も減少し、人家近くまで波が打ち寄せる被害が出始めた。

そこで、茨城県土木部河川課は波崎町から大洗町に至る鹿島沿岸約97 km に及ぶ鹿島灘の砂浜を守るために、強力な波浪にも耐えられるヘッドランド(長さ150 m 人口岬)を約1 km ごとに40基設置することになった。

この工事は、昭和60年度に着工し、平成11年度までに31基が着手、現在までに20基が完成している。このヘッドランドを地図上の目安にして、鳥類の観察と記録を行った。また、調査船を利用して沖合からも調査を行った。

### 調査コースおよび主な調査地

#### 1. Aコース

那珂川河口～旭村、銚田町下荒地の海岸、大洗海岸、大洗港、大貫海岸、夏海海岸、市之沢、冷水、柏熊、下荒地。ヘッドランドは、12基が計画され、現在、旭海岸の2基だけが完成している。

#### 2. Bコース

大洋海岸～鹿島港以北別所釜、上沢、下沢、大志崎、荒井、角折、荒野、清水、明石、下津、平井浜。この地域は、海流の侵食害が著しいため、ヘッドランドの着工は早く、23基が着工中現在14基が完成している。

#### 3. Cコース

鹿島港周辺。

#### 4. Dコース

日川浜、柳川、高浜、相生、須田浜、松下、松本、キャンプ場北、豊ヶ浜運動公園、波崎新港東、波崎新

港、利根川河口、ヘッドランドは、明石海岸を中心に5基の設置が予定されているが、すでに4基が完成している。

予備調査日を1997年6月21、22日の2回行った。本調査は、1997年9月13日から2000年2月27日の間に以下に示す23回実施した。1997年度は9月13、14日、10月28日、12月26、27日、1998年度は3月5日、5月16、17日、6月18、20日、9月26、27日、1月9、10日、1999年2月21日（日本野鳥の会茨城支部・冬の海鳥調査日）、1999年度は4月25、26日、5月10日、8月27、28日、11月21、23日、2000年2月27日（冬の海鳥調査日）。

結果および考察

今回の現地調査と資料調査から、鹿島灘沿岸から野鳥13目37科170種が記録された（付表1、2）。観察された鳥類の割合をグループ別に整理すると（表1）、冬に渡来するカモメ類やカモ科、ウミスズメ類、カイツブリ科、アビ科が約33.5%を占め、最も多いことがわかる。次いでシギやチドリ類の32.4%、夏鳥のミズナギドリ6.5%などが特徴的である。

この調査計画が進行していた頃、日本野鳥の会茨城支部が中心となって茨城の海で「海鳥」の調査が始められていた。そこで私も第4回目（99年2月）と第5回目（2000年2月）に加わり、鹿島灘地区の調査に参加した。その結果を付表2および、図2、3に示した。1999年2月21日には、鹿島灘地区の海鳥（A、B、C、D地区）4200羽（茨城の海の約50%）がカウントされた。付表2からわかるように、冬季はウ科が43.8%と最も多く、次いでカモメ科が34.2%と特徴的である。生息地も大部分が利根川河口の波崎港周辺で、約73.8%がカウントされている。2000年2月27日の同地区の調査では6206羽（茨城の海の約42.7%）と相変わらず多く、これも利根川河口に多く46.2%偏在していることがわかった。

表1でシギ・チドリ科が32.4%と多いのは資料調査の結果を反映したものである。これは鹿島港の開発と大きな関係があるように思える。1972年（昭和47年）頃、かつて国内有数のシギ・チドリの渡来地であった神栖・神之池が縮小され、水辺の海岸の鹿島平井浜・神栖知手浜の埋め立て地に多くのシギ・チドリが多く飛来した記録がある。また、冬期における鹿島灘沿岸の海鳥は、2月頃が比較的多く飛来する。寒流の親潮が鹿島灘沖や沿岸に多く流入する年は海鳥も多く飛来することが考えられる。ヘッドランドが多く設置されている場所（B地区）をよく見ると、その周辺は海流の

流れも穏やかでアサリやハマグリなどの生育も良く海鳥（ピロードキンクロ、クロガモ、カンムリカイツブリ）などが比較的多く見られた。今後の調査方針として海岸に加えて、船で沖にでて鳥の渡りの様子を調べていく必要がある。

表1. 鹿島灘沿岸の野鳥の特徴.

No.	種類	種数	割合(%)
1	シギ・チドリ類	55	32.4
2	カモメ類	21	12.4
3	カモ科	19	11.2
4	ミズナギドリ類	11	6.5
5	ウミスズメ科	9	5.3
6	ツグミ科	6	3.5
7	サギ科	6	3.5
8	タカ科	6	3.5
9	ウグイス科	6	3.5
10	カイツブリ科	5	2.9
11	アビ科	3	1.8
12	ウ科	3	1.8
13	カラス科	3	1.8
14	その他	17	10.0

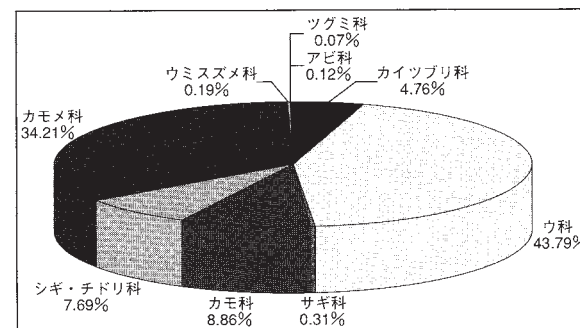


図2. 1999年2月下旬の鹿島灘沿岸の海鳥.

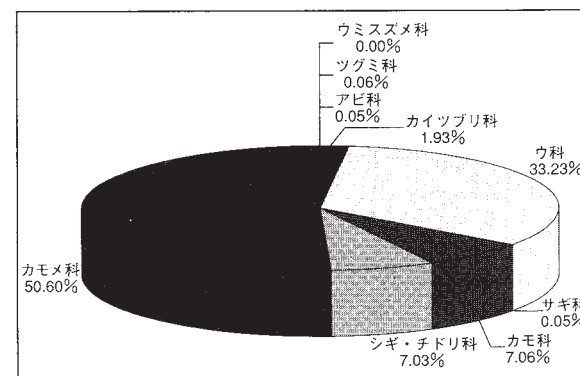


図3. 2000年2月下旬の鹿島灘沿岸の海鳥.

## 引用文献

- Harison P. 1996. SEABIRDS an identification guide. pp. 142-147, Christopher Helm, London.
- 茨城県鳥獣センター. 1969. 茨城県産鳥類の目録. 60 pp.
- 池野 進・秋田宏幸・植竹 孝・大高由良・大高純子・川崎公夫・武田隆治・西野正義・益子 忍・益子美由希・山崎純子・横須賀建志. 1997. 第1回冬の高鳥調査の結果 (96. 2. 25実施) ウミスズメなど寒流の鳥で溢れる茨城の海. 日本野鳥の会茨城支部報「ひばり」, (215): 8-9.
- 池野 進・秋田宏幸・大高由良・大高純子・大槻公彦・大沼隆夫・栗田建史・関根一広・瀬谷喜和・福田篤徳・福田愛子・益子 忍・益子芳江・益子美由紀・矢吹 勉. 1998. 1997年冬の海鳥調査の結果 ウミスズメ科 種類と数で激減—県北沿岸を僅かにかすめた親潮—. 日本野鳥の会茨城支部報「ひばり」, (221): 7-9.
- 栗田建史・秋田宏幸・明日香治彦・植竹 孝・植竹静江・大高純子・大槻公彦・加瀬由子・方波見守一・黒羽多恵子・関根一広・寺田一美・福田篤徳・益子 忍・益子芳江・益子美由希・矢吹 勉・横須賀建志・池野 進. 1999. 98冬の海鳥調査結果. 日本野鳥の会茨城支部報「ひばり」, (227): 5-7.
- 栗田建史・秋田宏幸・明日香治彦・阿部房三・植竹 孝・植竹静江・加瀬美津雄・加瀬由子・勝間信之・草野清恵・信田金子・関根一広・瀬谷善和・高橋清志・戸田守彦・仲田 勤・福田篤徳・益子 忍・益子芳江・益子美由希・森田幹夫・山口萬壽美・山口靖子・山崎純子・横須賀建志. 2000. 第4回冬の海鳥調査 99冬の海鳥調査結果. 日本野鳥の会茨城支部

報「ひばり」, (233): 5-7.

- 栗田建史・秋田宏幸・明日香治彦・植竹 孝・植竹静江・方波見守一・栗田隼輔・信田金子・関根一広・瀬谷善和・武田久子・福田篤徳・益子 忍・益子芳江・益子美由希・森田幹夫・山口萬壽美・山口靖子・山崎純子・横田常男・横須賀建志. 2000. 第5回冬の海鳥調査 2000年冬の調査結果. 日本野鳥の会茨城支部報「ひばり」, (239): 5-7.
- 日本鳥類目録編集委員会 (編). 2000. 日本鳥類目録 (改訂第6版). 345 pp., 日本鳥学会.
- 山口萬壽美. 1984. 動物 (鳥類). 北浦・鹿島灘県立自然公園候補地学術調査報告書, 84-93 pp., 茨城県環境管理課.

## 参考文献

- 森岡照明・叶内雅彦・川田 隆・山形則男. 1995. 図鑑日本ワシタカ類. 631 pp., 文一総合出版, 東京.
- 中村登流. 1986. 野鳥の図鑑 水の鳥①. 212 pp., 保育社, 大阪.
- 中村登流. 1986. 野鳥の図鑑 水の鳥②. 212 pp., 保育社, 大阪.
- 日本野鳥の会. 1982-2000. Strix. 1-18. 189 pp., 日本野鳥の会. 東京.
- 高野伸二・叶内拓哉・森岡照明. 1981. 日本産鳥類図鑑. 474 pp., 東海大学出版会, 東京.
- 氏原巨雄・氏原道昭. 1992. BIRDERスペシャル カモメ識別ガイド. 79 pp., 文一総合出版, 東京.

## 調査研究および執筆

山口萬壽美 (日本野鳥の会茨城支部・副支部長)







動物

付表2. 冬季の鹿島灘の海鳥.

No.	種名	調査年度		1999 (H11)					2000 (H12)				
		調査地		A	B	C	D	計	A	B	C	D	計
1	アビ				5			5	1	2			3
2	カイツブリ						1	1					
3	ハジロカイツブリ			14		1	50	65	21	7	9	23	60
4	ミミカイツブリ				1	1		2		3			3
5	アカエリカイツブリ					4		4		4			4
6	カンムリカイツブリ			45	24	44	15	128	18	9	23	3	53
7	ウミウ			17	1	103	1718	1839	1	1	566	1494	2062
8	ダイサギ			2				2					
9	コサギ			2		1	2	5		3			3
10	アオサギ					1	5	6					
11	マガモ			8	5	62		75		8	64	12	84
12	カルガモ			14				14					
13	ヒドリガモ			27				27					
14	オナガガモ										2		2
15	ホシハジロ											48	48
16	キンクロハジロ						1	1					
17	スズガモ			48			58	106		3		35	38
18	クロガモ			14	117			131	135	105			240
18	ビロードキンクロ				18			18	20	5			25
19	シロリガモ											1	1
20	ミヤコドリ						4	4					
21	コチドリ						2	2					
22	シロチドリ				9		5	14	1	1	1	7	10
23	ハマシギ			39	11		87	137			82	58	140
24	ミユビシギ						166	166	19	126		141	286
25	ユリカモメ			5	68	65	3	141	4	2		164	170
26	セグロカモメ			10	5	48	145	208	97	31	128	247	503
27	オオセグロカモメ						124	124	5	5	2	56	68
28	ワシカモメ						2	2					
29	シロカモメ						2	2			1	4	5
30	カモメ sp.						293	293	219	5	6		230
31	ウミネコ			233	11	7	380	631	495		1094	575	2164
32	ミツユビカモメ				34		2	36					
33	ケイマフリ				1			1					
34	ウミスズメ				6	1		7					
35	イソヒヨドリ			2	1			3	2	2			4
合計				480	317	338	3065	4200	1038	322	1978	2868	6206

資料: 日本野鳥の会茨城支部「冬の家鳥調査班」報告書抜粋. 調査・指導: 池野 進 まとめ: 栗田健史

1999年 (H11) 2月21日の記録

- A: 秋田宏幸, 山崎純子, 関根一広
- B: 山口萬壽美, 山口靖子, 戸田守彦, 高橋 清, 草野清江, 方波見守一
- C: 福田篤徳
- D: 明日香治彦, 仲田 勤, 加藤美津雄, 加瀬由子

2000年(H12)2月27日調査

- A: 秋田宏幸, 山崎純子, 関根一広
- B: 山口萬壽美, 山口靖子, 高橋 清, 方波見守一, 横田常男
- C: 福田宏幸
- D: 明日香治彦, 仲田 勤, 加藤美津雄, 加瀬由子